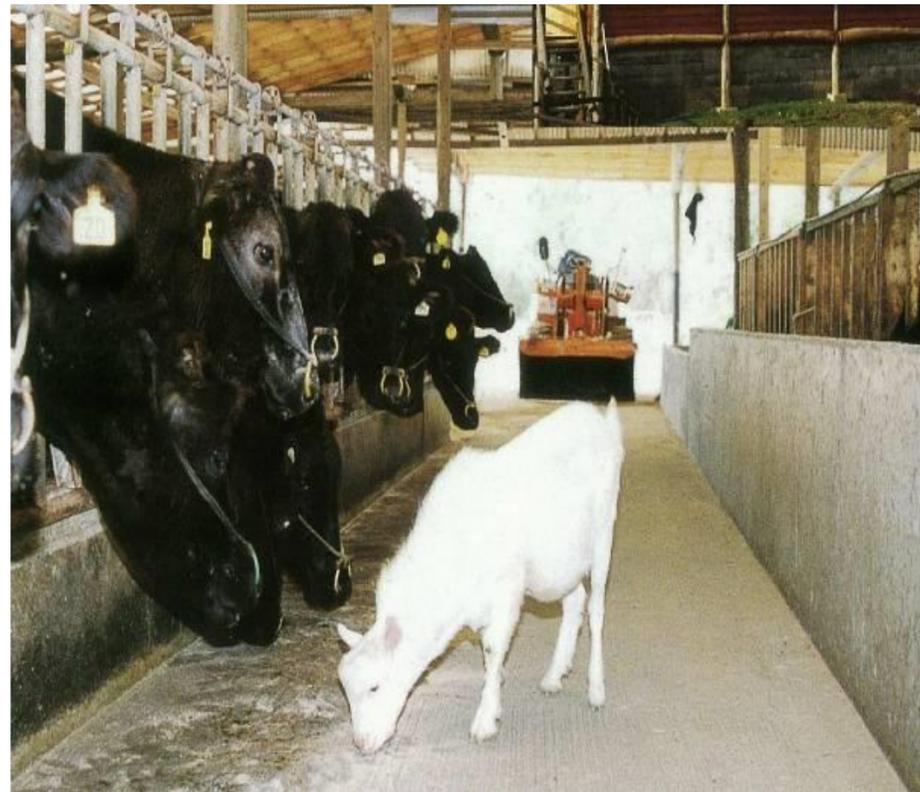


# 喜界島のゴマについて

喜界町役場農業振興課

# ○ 喜界島ってどんな島？



鹿児島県喜界町

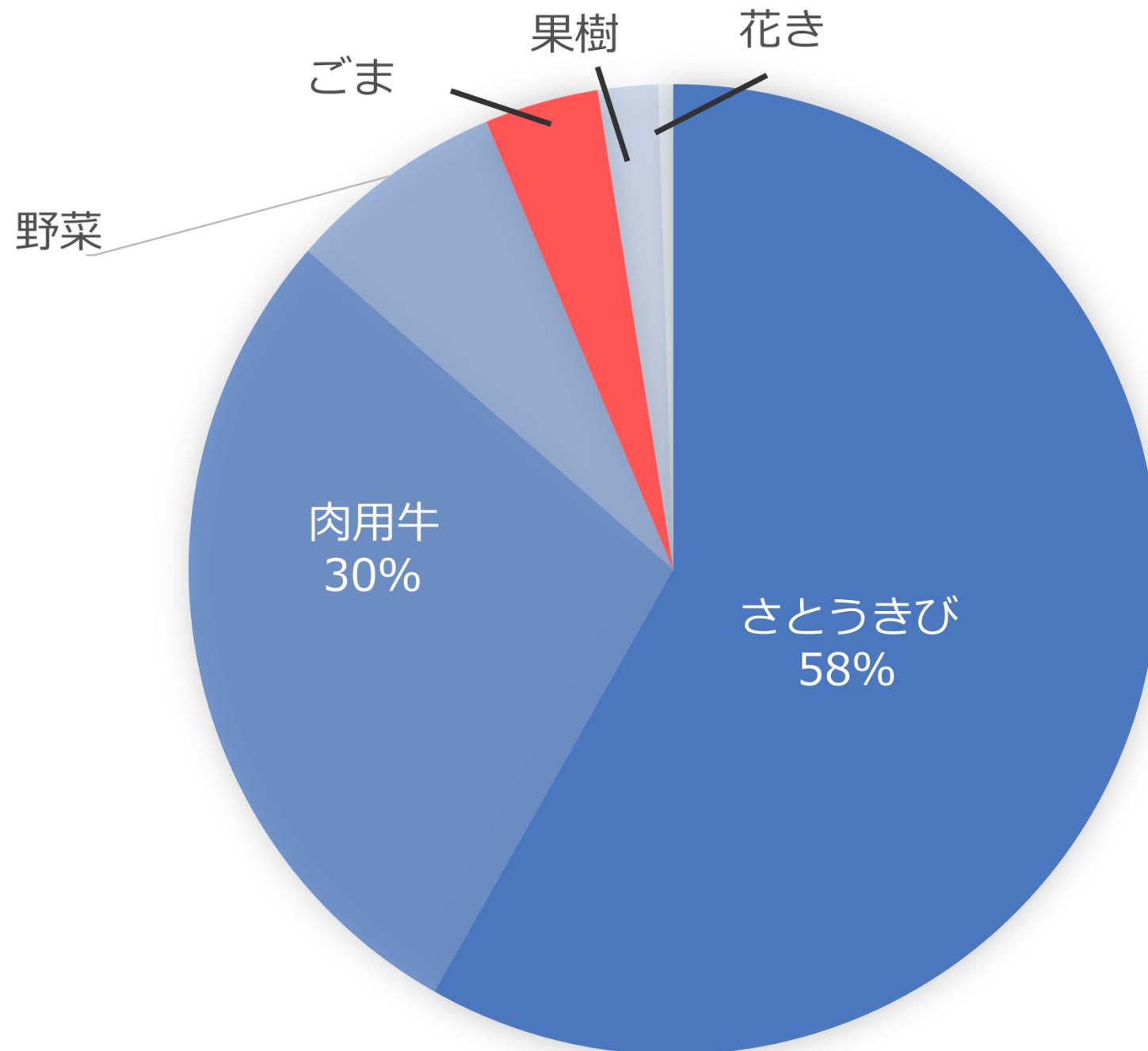
人口：7,120人（H30.3.31末）

面積：56.82km<sup>2</sup>

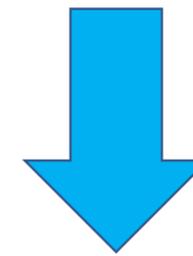
隆起サンゴ礁でできた島

# 喜界島の農業とは

喜界島の農業産出額 (R3)



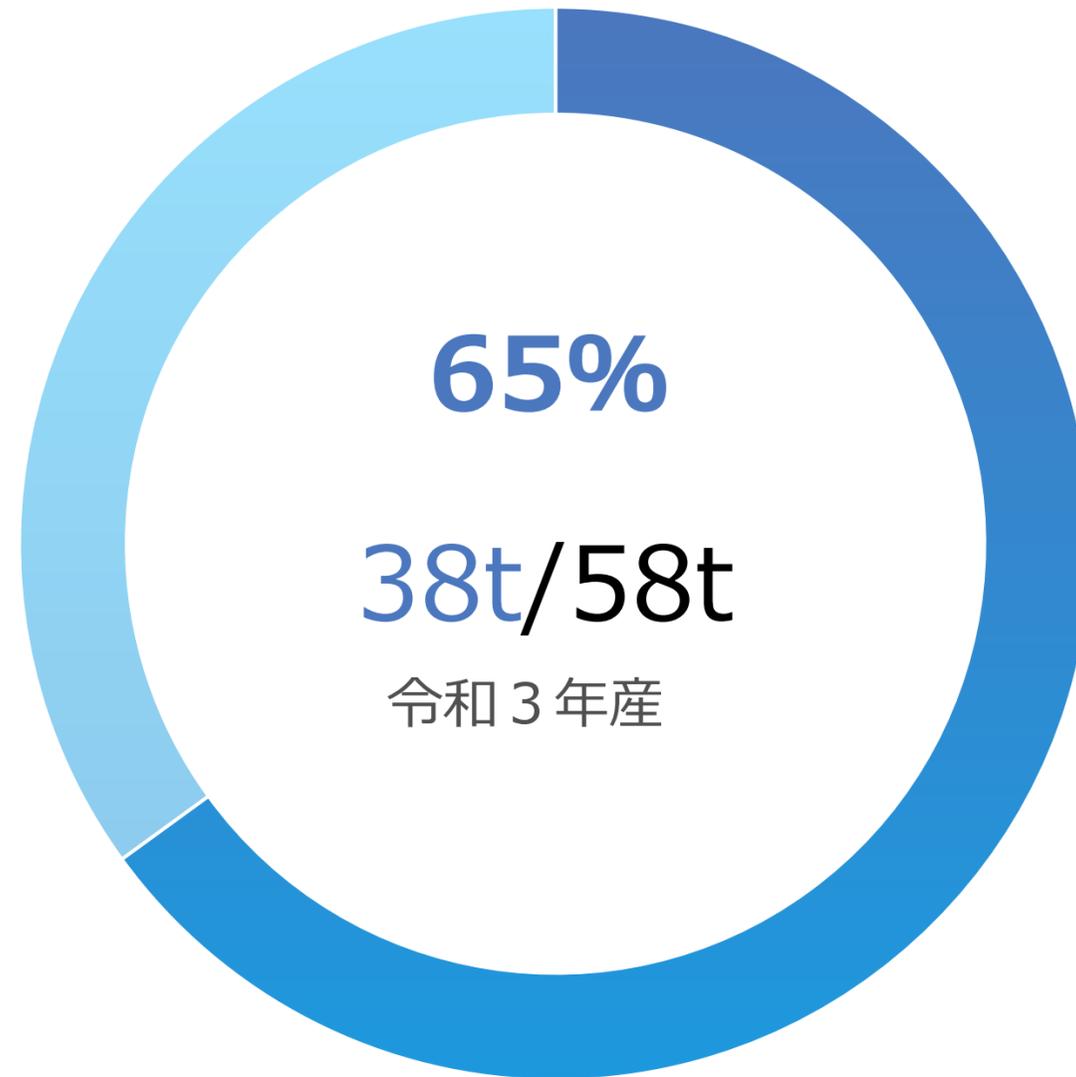
さとうきびや肉用牛が中心



サトウキビ・肉用牛  
+  
高収益作物

複合的農業

# 国内産ゴマのうち、喜界島産の占める割合



(参考) 県別データ

鹿児島県 : 40.3t

長野県 : 4.4t

栃木県 : 2.5t

日本特産農産物協会調査より

喜界島のゴマの生産量は  
**日本一！**

# ゴマの植物的特徴

- ゴマ科ゴマ属の一年草
- 原産地：アフリカ大陸（栽培ゴマが始まったのはインド）
- 生育適温は、25°C～35°C  
干ばつ（乾燥）に強く、多雨（湿害）に弱い
- 草丈は約1 m。  
花が咲いた後に生じるさく果（鞘）の中に多数の実ができる。
- 品種、系統の違いによって、  
黒ゴマ・白ゴマ・金ゴマ等がある。



# 喜界島のゴマの特徴・魅力

## 在来種

喜界島のゴマは、島外の他の品種と交配されず、生産者が自ら種を残し、栽培されてきた**在来種**の白ゴマ。喜界島の風土に適応しており、病害虫に強いと言われ、無農薬・無化学肥料で栽培されてきた。

## 品質

通常の白ゴマより、**小粒**だが、**香りが強い**ことが特徴。隆起サンゴ礁由来の土壌で育つため、**ミネラルが豊富**で機能性成分も多く含まれている。

## 貴重な『夏場の換金作物』

喜界町の基幹作物は、さとうきび。さとうきびの収穫は糖度が上がる冬に行われるのが一般的。夏場に現金収入の無い農家にとって、貴重な換金作物。

# 喜界島のゴマの歴史

## 100年以上

『鹿児島縣大島郡統計書』（明治42年）  
「奄美群島のごま収穫高のうち約65%が喜界島産」との記述。

## さらに歴史がある可能性も

『南島雑話』（名越佐源太：19世紀中頃）  
「奄美大島でゴマのお菓子を作られていた」という記述。  
喜界島のゴマが利用されていた可能性も！！

## 注目され始めたのは近年

製油業者の目に留まり、高値で取引されるようになり、  
平成16年頃から栽培面積・生産量が増加。



# 喜界島における白ごまの生産状況①

作付面積

作付面積・生産量の推移

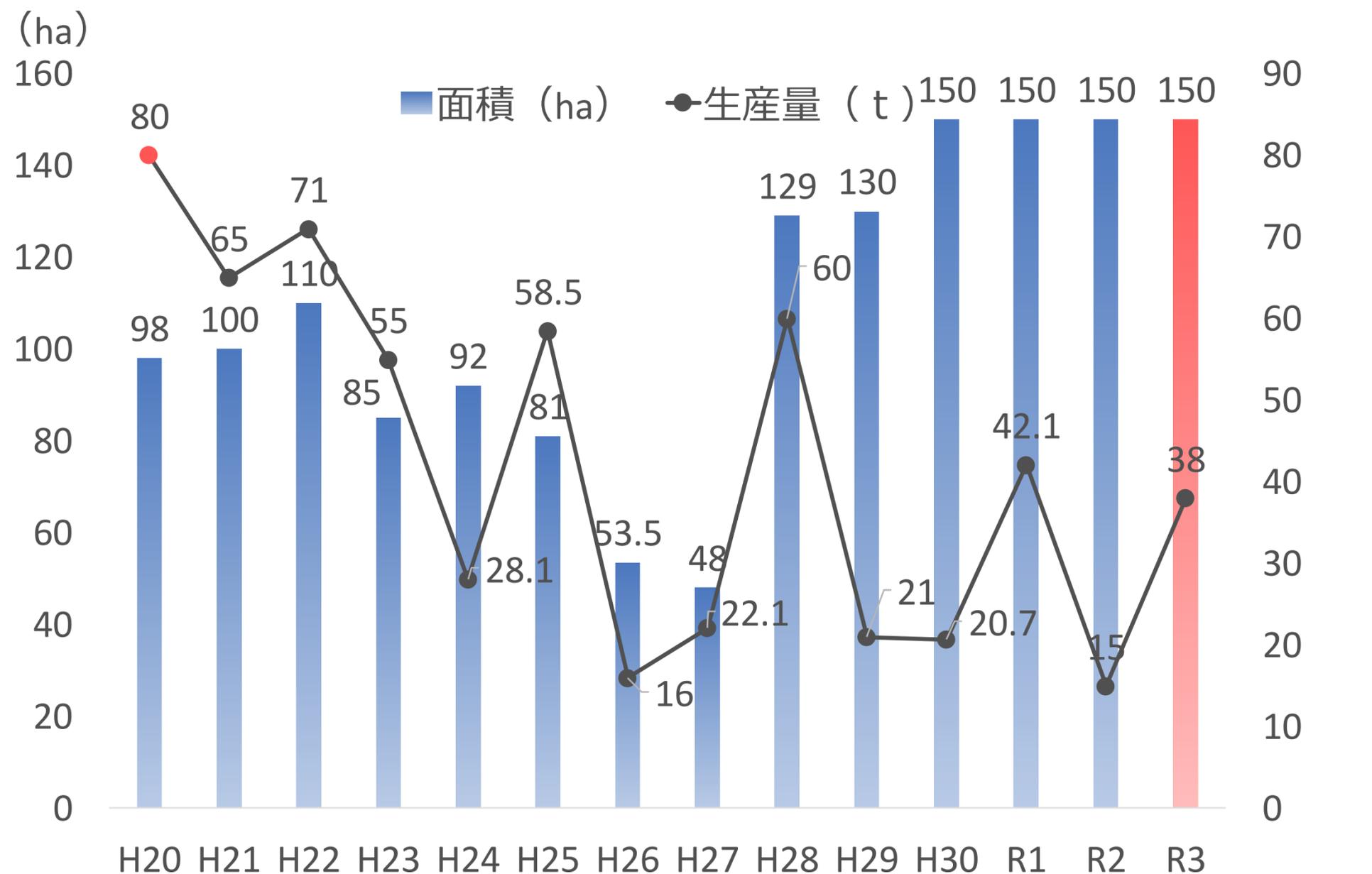
生産量 (t)

作付面積

- ・生産者増加による面積増加  
(平成31年栽培戸数は、250戸)  
⇒買取価格の上昇が起因

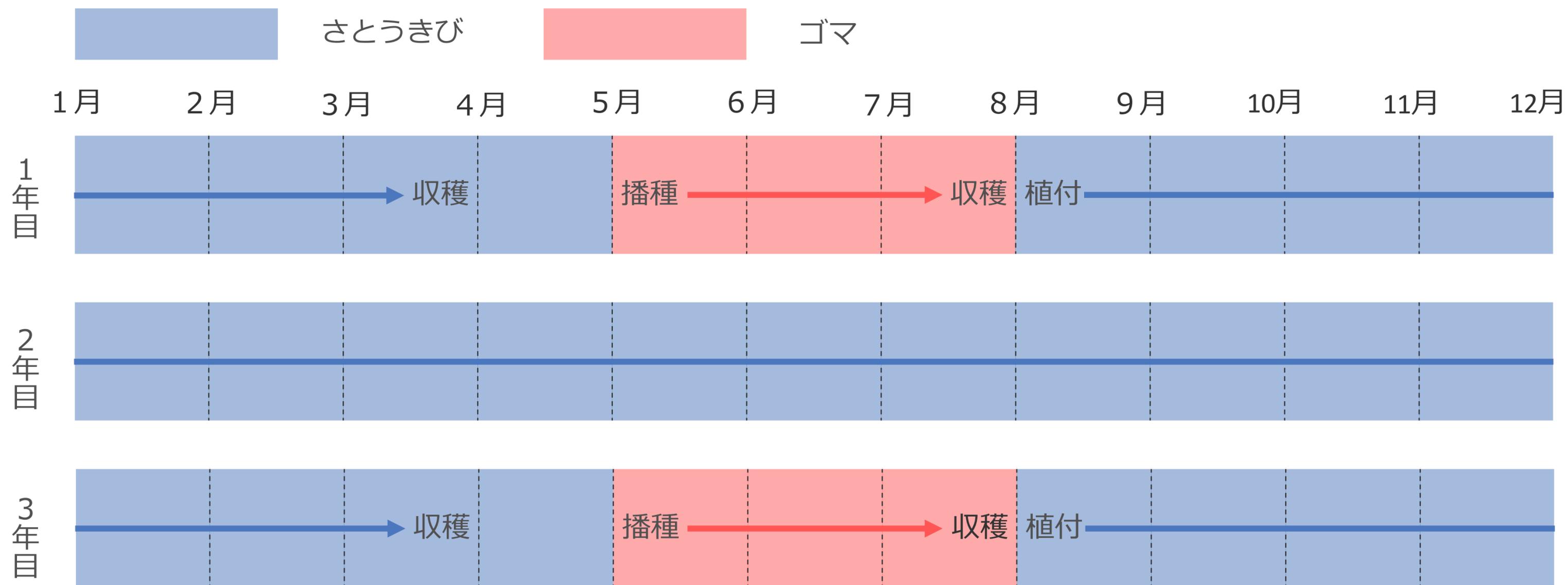
生産量

- ・天候(台風)により左右される。
- ・栽培方法の変化による単収の減少。  
(ばら播き⇒条播き)



# 喜界島におけるゴマの栽培

例：さとうきびとゴマの輪作（古くからの作型）



# ゴマ栽培の流れ①

## 播種（ばら播き）

昔から喜界島の主流。  
収量を見込めるが、除草や収穫作業が煩雑。



## 播種（条播き）

機械化により近年増加。除草や収穫作業が容易だが、ばら播きに比べ収量が落ちる。



いかに確実に発芽させるかがポイント。雨が続く日は避ける。地温（気温）の高い日を狙う。

## ゴマ栽培の流れ②

### 除草・間引き

近年は条播きにより作業が容易に。



### 収穫

収穫作業も機械化が進む。下部の2・3果が裂果した頃が収穫適期。



### 乾燥

ゴマのさく果がひらくのを促す。品質が劣化を防ぐため、雨に当てない。



管理作業（除草・間引き）が収量に直結する。また、この時期に台風が来ると収量が下がる。

# ゴマ栽培の流れ③

## 脱粒

棒などで叩いてさく果内のゴマを取り出す。



## 選別

ふるいにかけて、夾雑物を取り除く。近年は機械化が進む。



## 天日干し

天日干しで湿気をとる。虫を出す効果もある。



ゴマは収穫後の作業が多いことも特徴。品質に関わる作業が多い。

# 地理的表示（GI）保護制度

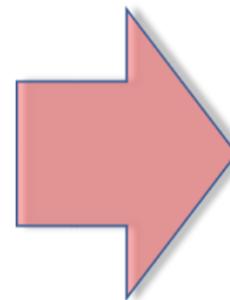
取得事例：鹿児島黒牛、桜島小ミカン、神戸牛など

## 目的

- ①生産者利益（地域の知的財産）の保護
- ②需要者（消費者等）の保護

## 制度の大枠

- ①産品をその生産地や品質の基準とともに登録。
- ②登録内容を満たす産品には、「地理的表示」、登録標章（GIマーク）を使用することが可能。
- ③不正な地理的表示の使用は、行政が取締り。
- ④生産者は、既登録団体への加入や、別途の生産者団体として登録を受けることにより、自らの産品に地理的表示を使用可能。



## 効果

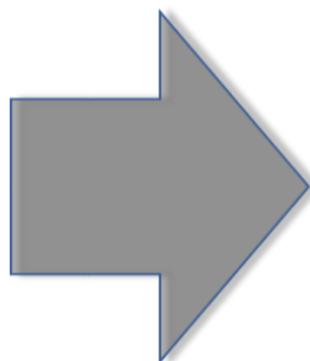
- ・原則として、登録された基準を満たす産品のみ  
に地理的表示が使用される。
- ・品質を守るもののみが市場に流通。
- ・GIマークにより、他産品との差別化が可能。
- ・訴訟等の負担なく、ブランド価値の保護される。
- ・地域共有の財産として、産品の名称が保護される。

# 今後の展開

## 直近の目標

### 生産者組織の設立

- ・ 栽培方法
- ・ 品質基準 の統一・共有
- ・ 試験研究
- ・ 各種支援の受け皿



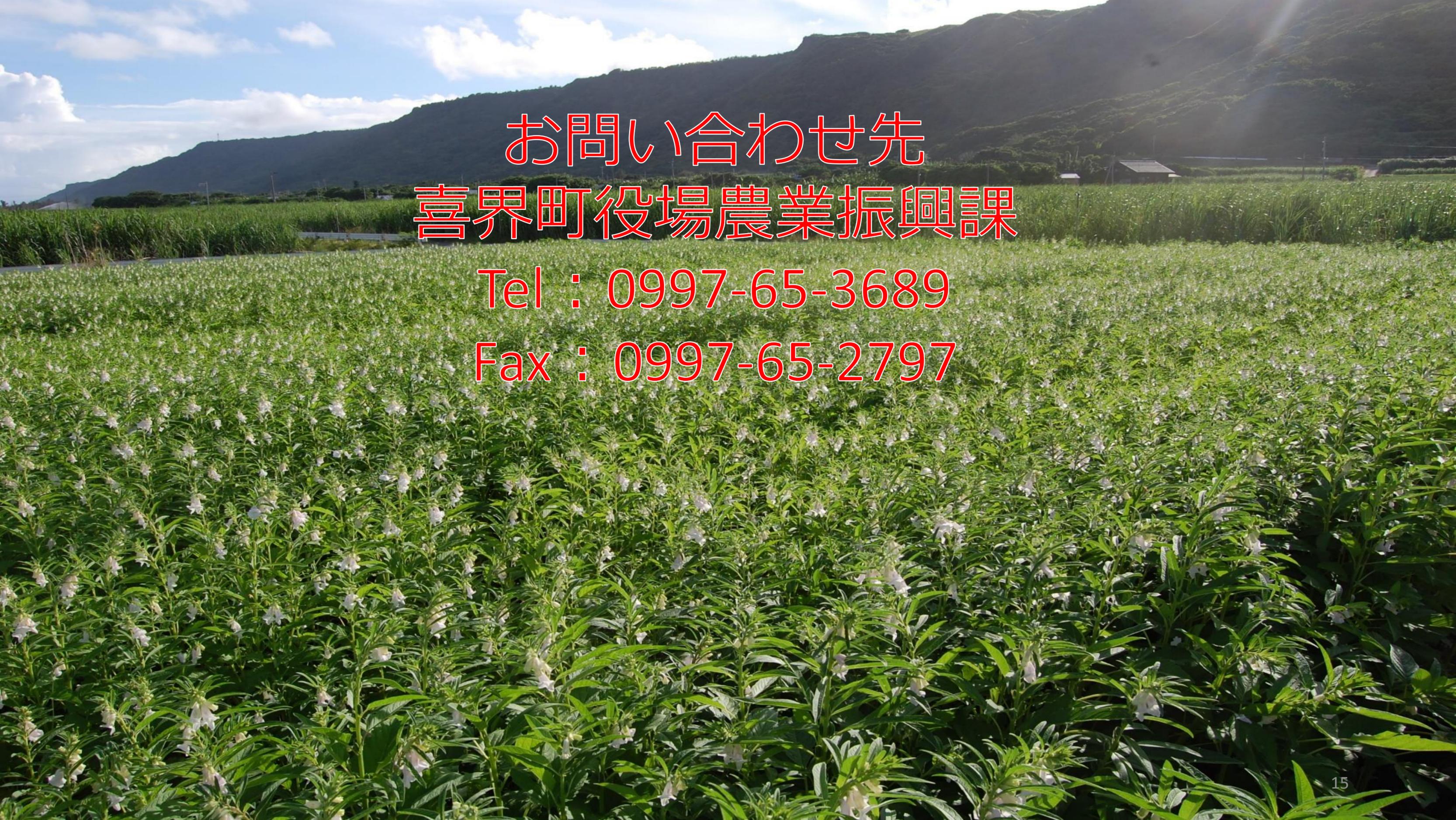
## 将来的な目標

### ブランドの保護及び強化

- ・ 在来種「白ゴマ」の系統選抜・品種登録
- ・ GI（地理的表示保護制度）認証取得  
⇒ 「喜界島産ゴマ」のブランド保護

足腰の強い、農家が儲かるゴマを目指す！

喜界島のゴマを守る！



お問い合わせ先  
喜界町役場農業振興課

Tel : 0997-65-3689

Fax : 0997-65-2797